

高等学校における漢字教育の問題点

吉本浩士

一 はじめに

現在のわれわれは、まず一日として文字を見ない日はないだろう。そして、その見方は文字を見ているのでも、ことばを見ているのでもない。意味を読みとろうとしている。自分の生活に無関係な意味はできるだけ、敏速に心の中で切り捨て消し去っていく。それができなければ、生活できないほどに、ことばが氾濫している。単にことばが氾濫しているだけであればまだいい。マスコミ攻勢は個人の認識や意志までも混乱させようとしている。

読むことの学力は、この攻勢にたえ、しかも、個人の確立と向上に役立つ適応力をもたなければならぬ。書くことの学力が文字を知っている、憶えているという知識に、文字を美しく速く書くことのできる技能が加わり、さらにそれが實際生活に適応できるように文章構成の技能と結びついて始めて、機能的な学力となる。(注1)

高校では生徒の当用漢字に対する既得能力がどの程度か、またどの程度向上させなければならぬかの限界がよくわかっていない。いわゆる弱い者いじめで、小学校や中学校がもっとやってくれなければ困るという人があるが、そういう人に限って中学を卒業するまでに要求される漢字能力の基準をご存知ない人が多い。すなわち現在の規定では、

イ、教育漢字八八一字(当用漢字別表)が全部、読み、かつ書くことができる。

ロ、当用漢字のおもなものが読める。

したがって、高校で受け持たねばならぬ領域は、

(読むこと) 中学校で百分でなかった当用漢字全部の読みを完成しなければならぬ。

(書くこと) 教育漢字以外のおもな当用漢字が書けるようにしなければならない。

となる。一体中学を卒業する生徒がどのくらいの漢字を書く能力を持っているかは、文部省の「漢字を書く能力とその基準」に八・九%(八八一字中七二一字)という報告がなされている。生徒は、この外に教育漢字以外の当用漢字を書くことができるかなりの潜在能力を持って高校へ進学してくる。そもそもこのおもな漢字という表現そのものはなはだ不明確で、解説書では、社会生活上の慣習から、おのずとその範囲が限定されていると述べているが、これがまたくせ者である。中学時代の当用漢字の読み方の不備は、教科書を扱う場合の付随的操作でおよそ目的が達せられるとしても、書く力は時おりの試験や作文、レポートなどの誤字訂正ぐらいでは、まさに木によつて魚を求むるよりも甚だしいのであろう。そこで、これではならぬと毎時間数分間をさいて書きとり練習をやったり、市販の練習帳などを利用して、生徒の書く力を高めている篤志家を見聞するが、もっと科学的、能率的な方法がないものだろうか。(注2)

こうした考えにたつて、私の実践を記し、反省の資とするともに諸氏の参考の資となれば望外の幸せである。

注1 学びとる力の評価 佐々木定夫 「教育国語教育」

S 35・3 明治図書

注2 漢字教育の問題点 尾関富太郎 「国文学」37・10 学燈社

二 生徒の実態制

愛媛県の南予地方は、第一次産業の盛んな土地である。宇和島市から東方へ約四十キロ、そこに北宇和高校定時制農業課程（三島分校、日吉分校）の二分校がある。生徒数二百名たらずの小さな学校。週四日、風開開校制で、ちよど全日制と夜間定時制との中間的な存在である。そこに通学する生徒達は、自営の農業を手伝いながら、勉強しているのである。都会から隔絶された、地方色豊かな、素朴な人間性を持っていることが、長所であり、また欠点にもなっている。しかし現実の厳しさは、直接就職・進学というかたちで迫る。

そうした環境のもとで、生徒達は、いったい勉強というものをどんなに考えているのか。次の生徒のアンケートの回答によって、その一端をうかがうことができると思う。もちろん、実際に教育にたずさわる場合には、さらにくわしい資料が必要であるが、この論稿とは直接関係がないので省略する。これらの資料のなかで、漢字教育をすゝめていくうえで、重視しなければならない三点についてふれると――

1、学校教育法第四十一条に「高等学校は、中学校における教育の基礎の上に、心身の発達に応じて、高等普通教育及び専門教育を施すことを目的とする。」とうたっている。が、定時制高校において、生徒達の入学目的は多種多様である。志願者数が定員に満たない、という現状において、この能力差の著しい生徒達をどのように指導すべきだろうか。

2、生徒の約九〇%の家庭では、地方紙が主ではあるが新聞を購

読している。これは農山村に住む生徒達にとって、唯一の生きた教材ではなからうか。そこで、この新聞をどう受け取っているか、という読み方になると大きな問題がある。新聞の読むべき態度、そういったものと漢字教育を結びつけることはできないだろうか。また、新聞を読む態度が、平素の学習態度の基盤になるといっては、言いすぎであらうか。

3、精神の活動においては、その結果に具象性が乏しい。ために生徒達は、やゝもすると目標を失いがちになる。目的意識のない学問なんておよそ無意味だ。おもしろくない。生徒に、はっきりした目的をもたせ、勉強のしかたを習得させるために、漢字テストを利用させることはできないだろうか。

○入学するとき、どんな目的を持っていましたか。

イ、勉強しよう

ホ よい社会人になるため

ロ 学びながら働こう

ヘ、卒業資格をとるため

ハ、身心をきたえよう

ト、家においても仕方がないので

ニ 就職のため

	イ	ロ	ハ	ニ	ホ	ヘ	ト
1	三二、	一三六、	八七、	四二九、	四一四、	七	一一二、
2	一一、	〇三〇、	〇八、	〇一一、	〇八、	〇二二、	〇八、
3	三二、	六三、	五、	八六、	五二五、	八二六、	二二、
4	一一、	二二三、	三三、	三七、	七	一一、	七、

○あなたは学習成績に関心をもっていきますか。

	関心大	あまり関心なし	無関心
1	一六、	二	七九、
2	一六、	〇	七二、
3	一九、	四	七七、
4	四、	〇	五七、

てその位置づけは、国語科が中心ではあるけれども、全学的なものとすることによって、その効果は倍増される。

実施方法

1、毎週一回L・H・Rのなる日のS・H・R(五分間)に行なう。出題の範囲は一週間前に掲示する。

2、一回十問で、漢字の書き取りを主体とし、そのほか読み、意味、空らん補充など、いろいろの形式で行なう。

3、テスト終了後、即日H・R主任が採点し、国語科でまとめ、正解、成績優秀者を校内に掲示発表する。

4 採点は十点満点とし、熟語は一字まちがったら誤答とし、旧漢字は正解とする。正誤の判定の困難なものは誤答とする。

※なお、この国語テストには褒賞規定が適用される。

※参考までに文部省の調査で、まちがいやすい漢字としてあげられている百二十五字を示しておく。

易延改械革確批判勸敏寄貴旗疑逆救協極均勸禁郡型欠濼券兼
権險滅敵巴護効耕航構興講殼混差再妻採済財策劇至視需取
拾柴從渾処序除招承称証情織推是聖整績善創總藏側俗厲損帶
隊貸達貯低停提程敵適統屆難式認派犯版否備俵票複奮陸編
弁補報質暴未盟訳輸余預咨浴欲率略臨録

四 経過報告

ちょうど、このレポートをまとめているとき、第二十回の国語テストを実施しようとしていた。計画をたて、実施にふみきって半歳、とても結果などわかるはずはない。しかし、実施の途中で、い

ろいろ気づく点、考えなければならぬ点が、つきつぎにあらわれてくる。そうした問題点を列挙して、おおかたの御批判をおおきかと思う。

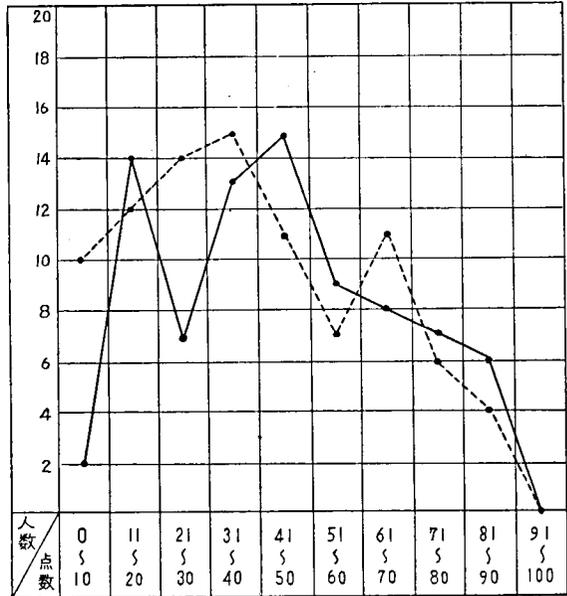
1、出題にあたっては、実施にあたっての留意点々に注意し、新聞、生徒手帳の諸規定など時宜にかなった方法をとった。一例を示すと、生徒会則から読みのテスト(第六回)、何月何日づけ愛媛新聞の見出しから書取りテスト(第五回、第九回、第十回)というように。また、出題範囲も、無理のいかないよう、社説なら二日分、見出しなら全頁の場合三日分位で親しみやすくということと同時に、だれでもできるように工夫した。十回までの成績に序列をつけ、国語授業のそれと比較してみると、そこにはっきりした差が認められるのは、努力したか否かの事情をはっきり物語っている。2、一年生と四年生の能力差は、知能テスト、高校入試問題などの成績からみると、あまり差はない。(平均した数字を横断法でながめるからではあるが)しかし、国語テストの結果からみると、四年生の成績は一年生の二―三倍である。これは四年生が高校生としての自覚を持つとともに、テストに対する態度がまじめで努力しているからだといえる。

3、第七回のテストは一学期(一―六回)までの復習の意味で、試験範囲を発表せず、二学期はじめて行なったものである。結果は他の国語テストの平均より好成绩であるのは、やはり、学習の効果があらわれていると判断しては早計であろうか。

4、国語テストに限らず大切なことは、成績よりも、どこをどんなに間違えたか反省することである。テスト終了後に正解を掲示するが、いかに関心を持っているかを調べるため、後日同一問題をときどき実施して、個別指導をする。

5、一年のある学級では、成績がかんばしくないのでテストの模擬

㊦ 国語テスト成績分布図



(注)

- 一、総点数は一〇〇点(一〇回)満点である。
 - 二、欠回数のある人は受験成績の平均点を加算した。
 - 三、両分校別の統計である。
- 三島分校………日吉分校

㊧ ○国語テストで予習をしましたか。

年	十分した (%)	時々調べた (%)	無関心 (%)
一年	二、九	六三、二	三二、一
二年	八、〇	五六、〇	三六、〇
三年	九、八	六一、一	二九、一
四年	二、二	六六、六	三〇、二

○国語テストについてどう思いますか。

年	効果がある (%)	あまり効果がない (%)	※	よくわからぬ (%)
一年	二、一	二二、五	一一、八	四二、六
二年	二、四	二二、〇	一一、〇	三二、〇
三年	五、七	二二、九	一六、〇	一九、四
四年	四、一	二二、〇	二〇、一	一五、四

※効果の有無は別として新聞を注意して読むようになった。

五 おわりに

これはある地方の小さな高等学校での実践記録である。実践報告は、中央の学術雑誌等で論争するような、はなはなしさはないけれども、体験を通して得た汗の結晶である。こつこつと歩んだじみな事実の記録である。それ故に尊いものだと思う。

わたしの国語教育観に対して、あるいは方法論において、いろいろ反論なり、批判のすることを期待している。この問題にひとりよりはふたり、ふたりよりは十人と、できるだけ多くの人たちに取らんでもらえれば、学力向上の問題はおのずと解決するとわたしは思う。学力向上とは、実は教師に対する啓蒙ではないのか。

最後に、わたしがかつて校内新聞に発表した「国語テスト実施に思う」という小文を再録して、あとがきに代えたい。

あなたは若い。ということばをよく耳にする。この若いということばには未熟であるという意味が含まれて使われていることが多い。未熟であるということは、見方をかえれば、無限の可能性を持っていることだ。将来に対する無限の可能性をそこに若さの魅力の根源があると思う。君たちがこの若さを武器として立ち向かう時、「私の辞書に不可能という語なし」といえるのではないか。

ことばは私たちが社会生活を営むうえに、必要欠くべからざるものである。そして使い方により生きてもくるし、また死にもする。自己の思想・感情を相手に正しく伝えるために、あるいは先方の思想・感情を理解するためにも。そこでマスコミュニケーションとしてのことばを考えると、自己の思想をできるだけ正確に相手に伝

達するためには、より多くのことば、日本語を知らなければならぬと思う。

より多くのことばを知ることが目的ではない。それを手段として、自己の思想・感情をみがき、人格形成をめざして、よりよき社会生活を営まんがためである。

この生きたことばを、きみたちの若さで克服するとき、その力は遺憾なく発揮されると思う。ことばの理解は、すべての生活の基礎である。立派な人間になるために、否、日本人として恥かしくない人間になるために大切であることはいうまでもない。若さのもつエネルギーを無駄にしないためにも今がその絶好の機会ではあるまいか。

自己を正しく診断し、明日への道標とすべく国語テストを活用してほしいものだ。

〔追記〕 この小論は、昭和三十七年十一月二十二日野村高校で行なわれた南予定通教育研究協議会で発表したものに補筆したものである。

（昭和三十八年一月十五日脱稿）

付表 国語テスト問題

国語テスト 一 (5・17)

1. 歩行者はウソク通行を励行しよう。
2. 交通事故のギセイ者がふえた。
3. 道路をオウダンして少女はねらる。
4. 子供みたらまずジョコウ。
5. 自転車とバイク正面ショウトツ。
6. 交通ドウトクを徹底させる。
7. 交通安全センゲンを決議した。
8. 交通タイサク協議会が発足した。
9. スピードイハンを取り締まって下さい。
10. 模範運転者を選んでビョウショウする。

国語テスト 二 (5・24)

1. 二人はアクシユしてわかれた。
2. インショウ深い顔だち。
3. 昨日のウリョウは五十ミリだった。
4. 老母はついにエイミンした。
5. やみ米をオウシユウした。
6. 満場一致でカケツした。
7. いつまでもキオクして忘れない。
8. 金をクメンする。
9. 失敗をケイキに発奮する。

10. 雑誌をコウドクする。

国語テスト 三 (6・7)

1. 労相削除要求を訓令
2. 次期国会批准まで
3. 約束不履行に憤激
4. アイヒマン死刑執行
5. 国際収支均衡に自信
6. 来月上旬ごろ派遣
7. 公共用地取得補償要綱まとまる。
8. 首相説示行政刷新に努めよ。
9. 批准遅延に強い不満
10. 逮捕や解雇さげよ。

国語テスト 四 (6・21)

1. 異 () 同音 声をそろえて同じ語を発す。
2. 言語 () 断 もつてのほか
2. 理 () 曲直 まちがったことと正しいこと
4. 大同小 () だいたい同じく少しちがう
5. () 田引水 自分の利益になるように物ごとをはこぶ

6. 馬耳 () 風 人の意見などをきき流す
7. () 尾一貫 しゅうしかわらぬこと
8. 空前 () 後 あともさきにもない
9. () 和雷同 一定の見識がなく他の説にすぐ賛成する。
10. 五里 () 中 物事に迷って手がかりがない。

国語テスト 五 (6・28)

1. 池田首相は全国をユウゼイした。
2. 南宇和に局地ゴウウが降った。
3. 選挙でバイシユウされないうちに。
4. ソ連にヨクリユウされていた七人。
5. 団体交渉をキョヒした。
6. 宮沢賢治ドウワ集
7. 宇和島市労連もダキョウす。
8. 密入国者二十一人をキソした。
9. 大雨でカオクに浸水した。
10. 水田にかなりのヒガイを与えた。

国語テスト 六 (7・5)

1. 忌引日数を決める。
2. 卒業までに履習する教科
3. 適宜職員会にはかる。

4. 県の出納員に納入する。
5. 学校が罹災した
6. 生徒は校訓遵守する。
7. 飲酒喫煙しない。
8. 社会人として恥じない品性の陶冶
9. 農場経営の円滑をはかる。
10. 体力の鍛練につとめる。

国語テスト 七、(9・20)

1. 国際收支均衡に自信
2. 農場経営の円滑をはかる。
3. 労相削除要求を訓令
4. 学校が罹災した。
5. 言語道断
6. 子供をみたらまずジヨコウ
7. 池田首相は全国をユウゼイした。
8. 交通ドウトクをよく守る。
9. 選挙でバイシユウされないように
10. いつまでもキオクして忘れない。

国語テスト 八 (9・27)

1. 副会長は会長の任務をホサする。
2. リンジに総会を開く。
3. 会費のヘンコウを上程する。

4. 過半数のサンセイを必要とする。
5. 学校生活をジユウジツさせる。
6. 役員解任の署名をシンセイする。
7. フウキ美化委員を選出する。
8. 定期総会をシヨウシユウする。
9. 会計カンサは厳重に
10. 生徒総会でシンギする。

国語テスト 九 (10・11)

1. 消費タイサクと自由化の活用
2. 自由ボウエキに期待する。
3. 綿花をサイバイする。
4. 広いシヤに立って意見をのべる。
5. 人工エイセイ船空を飛ぶ。
6. 稲のシユウカク期近づく。
7. 古ふんをハックツする。
8. イヨク的な仕事を期待する。
9. 親としてのジカクを持つ。
10. 十分コウリョした上で決定する。

国語テスト 十 (10・25)

1. まちがいをシテキする。
2. 外国経済にイゾンしない。
3. シユヨウと供給

4. シンコクな毛糸の安売り
5. 経済キカク庁長官
6. 核実験にコウギする。
7. 困難をコクフクする。
8. 工場を宇和島にユウチする。
9. 日本テッコウ業界は不況
10. 輸出のシンチヨウをはかる。

(元・愛媛県北宇和高等学校教諭)
(現・岡山県笠岡高等学校教諭)